

下笠の「エトエト祭」

下笠町・老杉神社にて

今年も下笠町では2月10日から滋賀県無形民俗文化財「頭屋の行事」が行われました。2月15日はエトエト祭と言って、早朝5時半過ぎには老杉神社の鳥居前に、寒い中多くの今年の村の人々が集まり神社への巡幸を待っていました。今回はそのエトエト祭で神様にお供えされる品々を中心に紹介します。



本社へのお供え



藁で作った蛇



貳之膳



お供えされた二つの膳



初之膳



天秤棒とツマミの入った桶



御供(赤飯のおもち)



お供えの品々は夫々に昔から受け継がれた方法で同じように作られ、神々にお供えされた後、各村々(8つの村)に下げ渡され各村人に配られます。

各お供えものの詳細



各お供えには赤、青、白、黄色の幟が立ち、村人の想いや願いを俳句や短冊にして書かれています。又木人形は柳の枝で作られ、青、赤色の紙の衣装を付けて牛蒡や大根に刺さって立っています。



酒粕に押されたぼてじゃこ
(めすし)



かます



斜切り大根と奥はずずめ



青海苔と斜切り牛蒡
手前は箸



束ね牛蒡と赤人形



積み重ねられた銀葉



束ね大根と赤・黄の幟、
奥は青人形

青人形は初之膳に、赤人形は貳之膳の立てられます。 各お供えものには夫々の意味あいがあると思います。 ご興味のある方は是非別途文献等でお調べください。